場所　神奈川県横須賀市

面積　0.23ha

活動目的

環境整備や在来種の保全活動により健全な水辺環境を整備し、自然・文化的価値を保つとともに、希少種の保全や地域の生態系ネットワークに貢献する。また、地域の自然を観察し、環境保全活動にも関われる環境教育の場として活用する。



サイト概要

本サイトは三浦半島に位置する大楠山（241m）の山裾に造られたため池であり、平地の住宅地と丘陵地の樹林地の境に位置している。サイト周辺は二次林が広がり、まばらに畑地や住宅地がみられるなど、里地里山の環境が形成されている。本サイトのため池は以前は水田耕作に利用されていたが、土地利用の変化によりその役割を終え、現在では地元の歴史的遺産として、また、地元の小学生の環境教育の場として大切にされている。サイト内では湿地を代表するヨシやガマ、トンボ類などのほか、希少な生き物が確認されている。これらを保全するために地域団体が活動を継続していたが、団体の解散が決まり、申請者がその役割を担うこととした。

土地利用の変遷

1946年、1983年、2019年の過去の空中写真によると、
・1946年：周辺には高さの異なる樹林がモザイク状に広がり薪炭林としての利用が伺える。本サイトの上流部や下流部に水田が広がる。
・1983年：樹林は植生高が高くなり、薪炭林としての利用が減退したことが伺える。耕作地が減少し、住宅地に置き換わりつつある。
・2019年：周辺の樹林はさらに生長しており、利用の痕跡はみられない。水田が畑地に置き換わったうえ減少し、住宅地が増加している。

サイト周辺の環境

本サイトは横須賀市芦名にある大楠山の山裾に位置する。周辺には広葉樹の二次林が広がり、本サイトが位置する谷部に沿って小規模な畑地が残る。下流側の低地は主に住宅地として利用され、耕作地が点在する。なお、サイトより上部の大楠山の一部は県の鳥獣保護区に指定されている。

アピールポイント

・本サイトには希少種が生育・生息しており、周辺地域の生き物に止水環境を提供する大事な場である。
・本サイトの管理は主に横須賀市により「まちかど里親」に指定された地域団体が行っており、ときに地域住民や小学生を招いたイベントを開き、共に地域生態系に配慮した活動を行うなど、環境学習の場となっている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは大楠山の山裾に位置するため池である。池の両岸にはマテバシイやカラスザンショウ、シロダモなどが生育する樹林が分布し、南側の堰堤部にはアズマネザサの藪がみられる。水際にはヨシやガマ、ミゾソバなどが優占する湿地が分布している。このような環境を反映し、アオサギ、カワセミ、ウグイス、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、モツゴ、ヤマトヌマエビ、マメゲンゴロウなどが確認されている。

【主な植生】

・二次林、二次草原：本サイト内の緑地の7割を占める
　落葉広葉樹二次林、アズマネザサ群落、ミゾソバ群落、ヨシ群落など
・その他の植生：先駆性落葉広葉樹二次林、ジュズダマ群落、セイタカアワダチソウ群落など

【確認された主な動植物など】

・植物：スギナ、イヌワラビ、クヌギ、エノキ、イヌビワ、ミズ、ミゾソバ、シロダモ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イ、オギ、クサヨシ、ヨシ、ガマなど、合計123種
・鳥類：カルガモ、キジバト、アオサギ、フクロウ、カワセミ、ヤマガラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、カワラヒワなど、合計17種
・昆虫類：アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コセアカアメンボ、コバネナガカメムシ、タデマルカメムシ、イネクビボソハムシなど、合計73種
・魚類：モツゴ、タモロコなど、合計3種
・底生動物：ヤマトヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ヌマエビ、モクズガニ、コシボソヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、アメンボ、ネグロセンブリ、マメゲンゴロウなど、合計28種
・その他：タヌキの1種（哺乳類）
※このほか、ニリンソウやヤマアカガエル、ホタル類などの目撃情報がある



写真の説明：本サイトで確認されたオオカマキリ



写真の説明：二次的な自然環境を利用しているカワセミ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、在来種を中心とした止水環境として地域団体によって維持管理されており、地域住民や小学生を招いた自然観察会や保全活動（在来種の植物の生育環境づくり、生き物調査、外来種駆除、ため池の水質管理など）を実施するなど、環境学習や自然に親しむ場として活用されている。また、地域住民の野鳥観察の場として親しまれている。

【主な植生】

前述の価値（3）同様

・二次林、二次草原：　落葉広葉樹二次林、アズマネザサ群落、ミゾソバ群落など

・その他の植生：先駆性落葉広葉樹二次林、ジュズダマ群落、セイタカアワダチソウ群落など

【確認された主な動植物など】

・植物：スギナ、イヌワラビ、クヌギ、エノキ、イヌビワ、ミズ、ミゾソバ、シロダモ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イ、オギ、クサヨシ、ヨシ、ガマなど、合計123種

・鳥類：カルガモ、キジバト、アオサギ、フクロウ、カワセミ、ヤマガラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、カワラヒワなど、合計17種

・昆虫類：アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コセアカアメンボ、コバネナガカメムシ、タデマルカメムシ、イネクビボソハムシなど、合計73種

・魚類：モツゴ、タモロコなど、合計3種

・底生動物：ヤマトヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ヌマエビ、モクズガニ、コシボソヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、アメンボ、ネグロセンブリ、マメゲンゴロウなど、合計28種

・その他：タヌキの1種（哺乳類）

※このほか、ニリンソウやヤマアカガエル、ホタル類などの目撃情報がある



写真の説明：小学生を招いた自然観察会



写真の説明：本サイトで確認されたシオカラトンボ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは大楠山の山裾に位置するため池である。両岸は樹林に隣接しており、水際にはヨシやミゾソバなどが優占する湿地が分布している。

【確認された希少種】

環境省レッドリストや神奈川県レッドデータで挙げられている複数の希少種が確認されている。

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

本サイトの上流端からサイト東側の道に沿って流れる小規模な細流が、希少な動物の越冬、繁殖、採餌の場として機能している。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

・対象となる動物種：希少な動物1種
・生活史の内容：越冬、繁殖、採餌

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

◆活動1　在来種を中心とした健全な湿地環境の維持管理
（関連：価値(3)(4)(6)(8)）
・活動場所：本サイト全域
・活動時期：2か月に1回程度
・活動内容：在来種中心の湿地環境を維持するため、生育環境の競合や在来種の捕食など、危害要因になりうる外来種を捕獲・駆除・除去し、本サイトで確認された在来種や希少種の生育・生息環境を維持・管理する

◆活動2：環境学習の実施（関連：価値(3)(4)(6)(8)）
・活動場所：本サイト全域
・活動時期：随時
・活動内容：地域住民や小学生を招いた自然観察会や保全活動を行い、自然に親しみながら生物多様性に関する意識を高める環境学習（自然観察会や植生管理など）を実施する
※必要に応じて、底泥や単調化した水際の植生の攪乱を検討し、これによる希少種の保全及び復活を目指す

＜活動の引継ぎ＞
　本サイトの保全・維持管理や市民向けの活用を行っていた地域団体が2024年度末に解散予定のため、2024年度始より引継ぎを開始し9月・11月・1月・3月と、共同で保全・維持活動を実施（予定）しているまた、今後も地域住民の意向を円滑にくみ上げることができるよう、有志の方々が定期的に参加するとともに、定期的意見交換を実施する

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
①希少種や外来種など
②本サイトに生育、生息する生き物（植物、鳥類、昆虫類、水生生物）

【モニタリング場所】
①②本サイト全域

【モニタリング手法】
①②任意踏査の目視確認を基本とする

【モニタリングの実施時期及び頻度】
①左記の活動時に希少種や外来種などの生育、生息状況を確認する
②5年に1度、1年を通じた調査の実施を基本とする
※活動による環境の変化や希少種などへの影響が予想される場合は適宜実施する

【モニタリング実施体制】
①連携団体の協働により実施する
②株式会社地域環境計画を中心として実施する